

8月22日、貨物鉄産労九州地区本部が福岡総合鉄道部において、日貨労から脱退した56歳の仲間を新たに迎え入れた。貨物鉄産労では5月の東海地区本部に続いての組織拡大であり、良識ある日貨労組合員が、今後、組合員不在のJR総連・日貨労の運動に見切りをつける動きが加速するか？！

貨物鉄産労・九州地区本部が組織拡大

加入した仲間を歓迎！

良識ある組合員は気づいている「違和感」

日貨労では、「実質的スト権確立」と報じられたJR東労組と同様に、6月の定期大会で相澤委員長が「いつでも、どこでも、どこからでも闘える組織体制」を確立するという方針を打ち出し、承認された。

日貨労も、来年の春闘に向けては、JR東労組と同じようにスト権確立に向けた組合員一票投票を行い、または臨時大会を開催し代議員による投票を行おうとしているのか！？そしてJR東労組と同様、「実質的スト権確立」を「いつでも、どこでも、どこからでも闘う体制」といった独特の呼称で言い換え、「スト権」を突き付けて会社を揺さぶろうとでもしているのだろうか！？

JR東労組内では、スト権確立に向けた動きに反発し、JR東労組を脱退する動きが複数生まれ、今もなお‘まっとうな火種’はくすぶっていると聞く。国鉄時代に、国民・利用者に散々迷惑をかけたストライキを、なぜ今チラつかせるのか。JR発足の歴史的経緯に鑑みれば、いたずらに労働者の権利だけを優先させて経済・社会を不安定化させる運動は、理解を得られるはずもない。

政策課題の前進には風通しの良い労使関係が不可欠！

JR連合は、貨物鉄産労とともに、JR貨物の経営安定化にむけた政策課題の実現に全力で取り組んでいる。「貨物鉄道モーダルシフトPT」の取り組みから、2017年度税制改正における承継特例（5年延長）や電気機関車買換特例（3年延長）等の税制措置の延長を実現してきた。JR貨物の政策課題の前進に向けては、風通しの良い組織と労使関係の構築が極めて重要である。

組合員と家族の幸せ、政策課題実現を目指す
JR連合・貨物鉄産労に結集しよう！